

めぐみイエス・キリスト教会

2025年12月28日(日)第四主日礼拝
午前10時より
週報「通算第789号」



2025年標題聖句 イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷺のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れない。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時
聖書の学びと祈り会 每週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木竜実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

- 【賛美 I】 新聖歌209「慈しみ深き」 p. 316
【交読文】 No.2 詩篇第8篇 p. 879
【賛美 II】 新聖歌233「驚くばかりの」 p. 354
【使徒信条】
【主の祈り】
【前回説教】
【賛美 III】 オリジナル曲「天より来られし」
【聖書朗読】 エペソ人への手紙3章20節～21節 (p. 388)
【礼拝説教】 私たちの内で働く神の力(松本望美宣教師)
【聖餐式】
【賛美 IV】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236
【平和祈り】
【頌栄】 新聖歌63 「父・御子・御靈の」 p. 85
【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(エペソ人への手紙3章21節～22節)

3:20 どうか、私たちのうちに働く御力によって、私たちが願うところ、思うところのすべてをはるかに超えて行なうことのできる方に、

3:21 教会において、またキリスト・イエスにあって、栄光が、世々限りなく、とこしえまでもありますように。

◎先週のメッセージ【その名をイエスとつけなさい】

《本日の聖書箇所は、マリアが、エルサレム郊外の町エン・カレムの親戚エリサベツの所に行って、ナザレに戻った後のことになります。

マリアは、父ヨアキムと母アンナに、そして婚約者ヨセフに、身ごもつたことを伝えます。この頃には、すでにお腹が大きくなり始めていたと思われます。マリアは御使いの言葉をヨセフに伝えたと思います。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられます。マリア。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。」

ヨセフは律法を守る正しい人であったので、本当に悩み苦しんだのです。マリアの言葉を信じることが出来なかつたからです。そして、うどうとしていますと、夢の中で御使いが現わされて、告げ知らせます。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖靈によるのです。マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。」

この言葉は、マリアがヨセフに告げた言葉を決定的に裏付けました。それからヨセフは、御使いとマリアの言葉を信じて、生まれてくる子を自分の子として育てる決心をしたと思われます。そして、ベツレヘムにて、その子が生まれると、その名をイエスとつけたのです。

この名前こそが、私たち人類の救い主の唯一の御名なのです。クリスマス、この日、救い主がお生まれになりました。そして、この時から約30数年後の十字架と復活を経て、父なる神は、「イエス」と言う名前を高く掲げられます。「それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。」と、パウロは書き記しているのです。メリー・クリスマス！》

◎お知らせ

※礼拝終了後バイオリンとピアノの演奏と茶菓によるティータイムがあります。なお1月4日(日)の礼拝はお休みし新年は11日(日)からです。